

河川敷清掃し 豊かな海守れ

高経大と県女大生

国連が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」

の実現に貢献しようと、NPO法人国際ボランティア学生協

高崎



会「IVUSA（イビューサ）」の群馬高崎クラブは、高崎市の高崎経済大周辺の河川敷で清掃活動を行った。同大と県立女子大の学生22人がフェースシールドを着け、プラスチックごみなどを拾った。写真。

SDGsの14番目のゴール「海の豊かさを守ろう」をテーマに、身近にあるごみを減らそうと企画した。4月以降は月1回程度のオンラインミーティングなどを開いてきたが、集まっでの活動は今年初めて。清掃の後は、この日初顔合わせとなった1年生を中心に、災害救援時の土のう袋の使い方を学ぶゲームなどで交流した。

同クラブマネージャーの須藤萌さん（高崎経済大3年）は「身近でできることをやろうと思った。以前から続けている竹林整備も徐々に再開したい」と話していた。